

令和3年度実施事業  
経営発達支援計画3年目事業報告書  
令和4年4月8日公開

愛甲商工会

## 《概要》

本報告書は、経営発達支援計画に基づき、愛甲商工会が令和3年度に実施した事業の実績、評価及び見直し結果等についてまとめたものである。

なお、評価及び見直しにあたっては、「愛甲商工会 経営発達支援計画検討委員会：外部評価委員会」（外部有識者）を活用し、幅広い意見を取り入れて審議を行った。

## 《愛甲商工会経営発達支援計画検討委員会：外部評価委員会》

### 1 目的

令和3年度 経営発達支援計画の年度目標（令和2年度事業の外部評価委員会の助言踏まえ）に対する実績報告を踏まえ、目標達成事業の効果、未達成事業の理由や原因について評価・検証し、計画の見直しや実施策を審議する。審議結果（本報告書）を商工会の理事会等へ報告し、次年度以降の事業に反映させていく。

なお、今回の外部評価委員会は、感染症影響下に配慮し、委員の皆さんに参集いただくことなく、メール等で事業内容を報告し、コメントや御意見をいただく形で、審議を行った。なお、最終的な評価や判断は委員長に一任する形で取りまとめた。

### 2 委員会

役	氏名	所属
委員長	泉 貴嗣	允治社
委員	奥村 友美子	日本政策金融公庫 厚木支店 国民生活事業
委員	磯田 純子	かながわ中小企業成長支援ステーション
委員	齋藤 伸介	愛川町 商工観光課
委員	坂本 誠治	清川村 産業観光課

### 3 事務局

No.	氏名	所属
1	久保 正英	KUBO 中小企業診断士 事務所
2	飯山 良弘	愛甲商工会 事務局長
3	和田 直己	愛甲商工会 経営指導員

### 4 開催日時

令和4年2月24日（木） 15時～17時

## ＜外部評価委員会を踏まえた取組内容の報告書＞

### 1. 地域の経済動向調査に関すること

#### 1) 目的

地域の景況感等、業種毎の経営や概況を、可能な限り把握し、個社支援や指導に役立てることである。

#### 2) 実施した内容

##### ・地域経済動向調査の実施

: 別添① 2021年実施「愛甲商工会・個社経営概況並びに地域経済動向調査」報告書

愛甲商工会管内事業者を対象に郵送にてアンケート調査（調査書は別添①参照）を実施し、この結果を基に経済動向の把握に活用した。

業種名	有効回答者数	業種名	有効回答者数
製造業	18	サービス業	26
卸売業	1	飲食業	8
小売業	14	農林水産業	2
建設土木業	17	その他	6
不動産業	4	<u>合計</u>	<u>96</u>

(地域経済動向調査 回答事業者の業種)

##### ・個社ヒアリングによる経済動向の把握

種々の専門家派遣の場や、窓口相談の場を通じて、個社の経営状況の把握を「ヒアリング」を通じて実施してきた。年間延べ44件になる。その情報と前述の「地域経済動向調査」の結果と突き合わせ、経営指導員や職員個々は、日々の支援の前提条件としている。

##### ・地域内金融機関向けアンケートの実施

: 別添② 2021年実施「金融機関向けアンケートの実施と融資先事業者の現状」報告書

管内事業者の景況感や業績、抱える課題を少しでも実感し、個社支援に役立てるため、金融機関3行の顧客先の状況把握に繋がる調査を実施した。また調査を依頼する場を通じて、融資担当者等が実感する個社の業績や景況感について、ヒアリングした。

名称
日本政策金融公庫厚木支店
相愛信用組合本店
相愛信用組合半原支店

- ・管内事業者への公表と共有（経済動向調査の活用）

調査結果を分かり易く解説し、管内経済動向として地域小規模事業者がいつでも活用できるように、報告書として取りまとめ、当商工会ホームページに掲載した。

また経営指導員等が、巡回指導や窓口相談の際に、指導基礎知識として活用した。

ホームページ URL : <http://www.aikou-shokokai.jp/>

### 3) 目標と実績

支援内容		令和3年目標 (評価委員会より)	令和3年実績
ヒアリング訪問件数	社	40	44
前中小企業景況調査同様の景況調査	社	80以上	96
地域内金融機関意見交換件数	件	4	4
地域内金融機関アンケート調査件数	件	3	3
HP掲載回数	回	1	1
広報(年4回発行)	回	1	1

### 4) 実績に対する検討委員会の評価（5段階評価）

	無い	どちらかと言えば無い	どちらとも言えない	どちらかと言えば有る	有る
有効性			○		
必要性					○
	不適切	どちらかと言えば不適切	どちらとも言えない	どちらかと言えば適切	適切
妥当性					○
	無い	どちらかと言えば無い	どちらとも言えない	どちらかと言えば有る	有る
効率性				○	

(評価の内容)

有効性：成果はあるか？効果は高いか？

必要性：目標に添っているか？必要か？

妥当性：事業実施の方法や内容は適切か？

効率性：ムリ、ムダ、ムラはどうか？

[検討委員会における評価並びに助言や提言]

泉 貴嗣：

- ・日常の現場支援の中で、個社の経営状況を把握できていることは、評価できる。

・今回の経済動向調査の実施手法のように、調査書を郵送し回収することより、日々の現場支援の中で、動向を収集し、それが効率性が高いのであれば、その取組への内容の見直しも検討の余地がある。

・ただし、指導員や職員毎に収集する情報が相違すると、管内の経済動向の把握が困難になる。定量的な質問項目の設定、さらには定性的な情報を、どう定量化するか等、議論を深めてほしい。

奥村 友美子：設備投資意欲と売上実績の関連が興味深い。設備投資の際は、導入に伴ってどの程度売上増加・経費削減が見込めるのか具体的な数値を事業者自身が認識し、その費用対効果を検証する必要があるため、そのプロセスにおける支援を行うことで設備の有効性が高まると感じた。

磯田 純子：

・個社にヒアリングして経営状況の把握を行えるのは、この機会しかない。そういった意味で、事務局の事業報告にある「意義が薄い」というのは、当たらないのではないか。

・現場支援において、職員や指導員間に収集する情報に差が無いように「収集すべきデータ」の統一や定量化といった点を検討してほしい。

齋藤 伸介：行政施策には活かせるので、当該取組は意義がある。また、日常の商工会との交流の中で、現場の実情や声を得ることがあるが、非常に役立っている。

坂本 誠治：日常の現場での「リアルな事業者の声」は、非常に意義があることなので、そのあたりの収集は、意義があると言える。

《委員長の総括》

管内事業者に対して適切な支援を行うために、一定のデータを収集し、事業者の経営状況を把握することは重要である。一方で、管内の特性を考慮し、現行の収集データの適否を検討し、その結果、独自のデータを収集すべきとなった場合は、磯田委員の指摘を考慮する必要がある。

5) 検討委員会の評価を踏まえた今後の方向性

<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 新たな取り組み <input type="checkbox"/> その他
<input checked="" type="checkbox"/> 改善	<input type="checkbox"/> 手法の見直し <input checked="" type="checkbox"/> 内容の見直し <input type="checkbox"/> その他 ( )
<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 適切な事業 <input type="checkbox"/> 大幅な見直し不要 <input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 効果や妥当性の範囲で実施 <input type="checkbox"/> いずれは廃止・休止 <input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 廃止・休止	<input type="checkbox"/> 効果や妥当性なし <input type="checkbox"/> 代替策を検討 <input type="checkbox"/> その他

6) 検討委員会の評価を踏まえた内部の総合判断 (評価)

判定	内容
<b>A</b>	A 目標を達成することができた B 概ね目標を達成できた C 目標の半分は達成できた D まったく目標を達成できなかった

7) 評価委員会を踏まえた次年度に向けた方向性と目標設定

①次年度に向けた取組の方向性

- ・経済動向調査の回答者数を少しでも増加させる努力を行う。
- ・経済動向調査結果と決算情報を可能な限り統計処理することで、愛甲商工会管内の事業者の経営特性の把握に努めていく。
- ・日常の現場支援の中で、個社の経営状況を把握する手法の検討と、その把握した情報を踏まえた「管内景況感」等を分析する手法について、検討を深めていく。

②次年度に向けた取組目標

評価委員会を踏まえ、下表の内容を目標とする。

支援内容		令和4年目標 (評価委員会より)
ヒアリング訪問件数	社	40
前中小企業景況調査同様の景況調査	社	80 以上
地域内金融機関意見交換件数	件	4
地域内金融機関アンケート調査件数	件	2
HP掲載回数	回	1
広報(年4回発行)	回	1

## 2. 経営状況の分析に関すること

### 1) 目的

個社が、業績や経営状態を正しく把握し、必要なアクション（コスト低減、売上獲得、経営資源の効率性等）が実践できる管内事業者を増やしていくことである。

なお、実施目的としては、次項の「事業計画策定支援に関すること」「事業計画実施支援に関すること」への活用を意図して実施する。

### 2) 実施した内容

- ・ 記帳指導を通じた経営状況の分析並びに助言

: 別添③ 記帳指導を通じて経営状況の分析並びに助言を行った個社一覧  
別添③のとおり、12社に対して分析並びに助言を行った。

- ・ 経営ヒアリングシート調査

本調査は、昨年と同様、前述の地域経済動向調査にて実施した。

- ・ 個社が経営改善に活用できる調査結果のアウトプット手法開発

本事業期間中に完結には至らないが、継続して実施している。具体的には、地域経済動向調査回答者に合わせ、当年/前年・売上高、当年/前年・営業利益の情報を整理している。次期は、これらを統計処理（多変量解析）することで、新たな手法を開発していく。

### 3) 目標と実績

支援内容		令和3年目標 (評価委員会より)	令和3年実績
記帳機械化対象者巡回訪問件数	件	10	12
経営ヒアリングシート調査件数	件	80以上	96
個社が経営改善に活用できる調査結果のアウトプット手法開発	回	1	1

#### 4) 実績に対する検討委員会の評価（5段階評価）

	無い	どちらかと言えば無い	どちらとも言えない	どちらかと言えば有る	有る
有効性					○
必要性					○
	不適切	どちらかと言えば不適切	どちらとも言えない	どちらかと言えば適切	適切
妥当性				○	
	無い	どちらかと言えば無い	どちらとも言えない	どちらかと言えば有る	有る
効率性					○

（評価の内容）

有効性：成果はあるか？効果は高いか？

必要性：目標に添っているか？必要か？

妥当性：事業実施の方法や内容は適切か？

効率性：ムリ、ムダ、ムラはどうか？

〔検討委員会における評価並びに助言や提言〕

泉 貴嗣：

- ・分析能力や、そもそも分析できるスキルが事業者に育成されているのか。事務局の報告にある「記帳指導しているくらいなので、自力は難しい」という見解には理解はできる。
- ・とは言え、スキルの育成支援の歩みは、止めないでほしい。
- ・to doのために、現状を知ることの重要性を理解させるテキスト作成等は出来ないだろうか。小規模事業者に理解を促せる工夫が必要ではあるが。例えば、1ページ4行程度で理解しやすい分量にする等である。
- ・取組が有効なのであれば、記帳指導する事業者を、可能な限り増やしてほしい。一方で支援を卒業する事業者の見極めも重要である。

奥村 友美子：現状の業績把握・分析を活用し、今後の事業計画策定へ繋げていって頂きたい。

磯田 純子：

- ・現状の小規模事業者の状況から、せめて仕訳くらいは出来るように育成してほしい。
- ・そもそも、確定申告をしようとする事業者が増えてきているという現状に至る「事務局のこれまでの取組」は評価したい。
- ・助言や指導（記帳指導等）をする個社数を拡げる努力と、卒業生を増やしていく努力を両輪で進めてほしい。



《委員長の総括》

これまでの経営状況の分析支援に関する商工会の努力は認める。一方でより多くの事業者が自律的に経営状況を分析し、自らの経営に役立てる必要があることを考慮すれば、事業者自身の自助努力に対する支援件数を増やすと共に、「卒業生」を輩出する必要があり、適切な KPI 設定等が望まれる。

5) 検討委員会の評価を踏まえた今後の方向性

<input checked="" type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 新たな取り組み <input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 改善	<input type="checkbox"/> 手法の見直し <input type="checkbox"/> 内容の見直し <input type="checkbox"/> その他 (                      )
<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 適切な事業 <input type="checkbox"/> 大幅な見直し不要 <input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 効果や妥当性の範囲で実施 <input type="checkbox"/> いずれは廃止・休止 <input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 廃止・休止	<input type="checkbox"/> 効果や妥当性なし <input type="checkbox"/> 代替策を検討 <input type="checkbox"/> その他

6) 検討委員会の評価を踏まえた内部の総合判断（評価）

判定	内容
<b>A</b>	A 目標を達成することができた B 概ね目標を達成できた C 目標の半分は達成できた D まったく目標を達成できなかった

7) 評価委員会を踏まえた次年度に向けた方向性と目標設定

**1** 次年度に向けた取組の方向性

- ・支援対象個社以外の管内の事業者が、「ぜひ取組んでみたい」と思える「良い事例」の公表と共有の仕方を検討して進めていく。
- ・感染症の拡大、さらには with コロナにおいて、重点的に支援しなければならない個社を商工会内で議論した上で、支援が有効になるよう、取り組んでいく所存である。
- ・新たに支援する個社を拡げる一方、支援を卒業する個社の状況とは、どのようなものなのかを検討していく。

2 次年度に向けた取組目標

評価委員会を踏まえ、下表の内容を目標とする。

支援内容		令和4年目標 (評価委員会より)
記帳機械化対象者巡回訪問件数	件	10
経営ヒアリングシート調査件数	件	80以上
個社が経営改善に活用できる調査 結果のアウトプット手法開発	回	1

### 3. 事業計画策定支援に関すること

#### 1) 目的

事業計画策定の重要性や意義を伝え、事業計画を策定しようとする管内事業者を増やしていくことである。

#### 2) 実施した内容

- ・事業計画策定セミナーの実施

: 別添④ セミナー告知フライヤー

: 別添⑤ セミナー時配布テキスト

計画策定の意義や、策定の仕方や記載内容を助言するため、集合セミナーを実施した。特徴としては、需要開拓に力点を置くことで（個社の日々の営業活動が「売上向上」そのものであること）、根本的な業績改善が叶うことを、理解していただける内容とした。

開催日：2021年10月19日（火） 参加者（社）数：6社（講師 久保正英）

開催日：2021年10月27日（水） 参加者（社）数：6社（講師 永友一朗）

- ・副業セミナーについて

本年は実施していない。

- ・セミナー開催周知ならびに計画策定支援実施の旨の周知

計画策定セミナーの開催の周知、さらには既存事業者の第2創業や、新たに創業（起業）される方の計画策定を支援する旨を伝えるため、事業計画策定セミナーは、2021年9月15日号広報誌「商工会ニュースあいこう」にて、各々愛川町内10,100世帯に配布した。また、会員に対してチラシ900部を直送した。合わせて当商工会ホームページにも掲載した。

- ・事業計画策定支援の実施

: 別添⑥ 2021年小規模事業者持続化補助金指導事業者一覧（当会管内のみ）

別添⑥のとおり、販路開拓の取組みを強化する意志のある個社を対象に、小規模事業者持続化補助金の申請支援を通じて、計画策定を支援した。また、既述の計画策定セミナーに参加した個社を対象に、伴走でサポートしており、必要に応じて計画策定へと駒を進める支援を行っていく。

### 3) 目標と実績

支援内容		令和3年目標 (評価委員会より)	令和3年実績
事業計画策定事業者数	社	6	4
事業計画策定支援周知数	部	11,950	11,000
副業の始め方セミナーの開催	回	1	0
副業の始め方セミナーの参加者数	名	10	0

### 4) 実績に対する検討委員会の評価 (5段階評価)

	無い	どちらかと言えば無い	どちらとも言えない	どちらかと言えば有る	有る
有効性					○
必要性					○
	不適切	どちらかと言えば不適切	どちらとも言えない	どちらかと言えば適切	適切
妥当性					○
	無い	どちらかと言えば無い	どちらとも言えない	どちらかと言えば有る	有る
効率性					○

(評価の内容)

有効性：成果はあるか？効果は高いか？

必要性：目標に添っているか？必要か？

妥当性：事業実施の方法や内容は適切か？

効率性：ムリ、ムダ、ムラはどうか？

[検討委員会における評価並びに助言や提言]

泉 貴嗣：

・周知数の11,950と11,000の差は、自治会の加盟世帯数ということなので、商工会として管理できる範囲ではない。目標数値の見直しが必要である。

・報告にある「持続化補助金申請支援」で採択事業者が4件であることに加え、それ以外の計画策定件数も踏まえると4件あることから、計8件になり、計画策定事業者数の目標値は達成できていると言える。

奥村 友美子：外部環境の変化が余技なくされているコロナ禍で、事業計画の策定は非常に有意義である。セミナー開催時にオンライン活用を行うとより幅が広がるのではないかな。

磯田 純子：

・計画策定事業者の掘り起しは、どう取り組んでいるか。補助金、融資以外の誘発策も検

討してほしい。

・国の協力金や給付金を切っ掛けに、計画策定事業者の掘り起しができないかと思うが、現在、商工会業務の多忙さは理解するため、今後、感染症影響が落ち着いた際に、検討してほしい。

・計画策定支援においては、感染症影響を踏まえた支援手法についても、今後、取り入れてほしい。例えば、オンデマンド等。

#### 《委員長の総括》

事業計画の策定は創業時と創業後の双方に必要である。一方で、その周知、実施方法についてはコロナ禍及びDXなどを考慮する必要がある。今後は管内の社会経済情勢に鑑み、より適切な事業意欲の刺激を行う手法の見直しが望まれる。

#### 5) 検討委員会の評価を踏まえた今後の方向性

<input checked="" type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 新たな取り組み <input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 改善	<input type="checkbox"/> 手法の見直し <input type="checkbox"/> 内容の見直し <input type="checkbox"/> その他 (                    )
<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 適切な事業 <input type="checkbox"/> 大幅な見直し不要 <input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 効果や妥当性の範囲で実施 <input type="checkbox"/> いずれは廃止・休止 <input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 廃止・休止	<input type="checkbox"/> 効果や妥当性なし <input type="checkbox"/> 代替策を検討 <input type="checkbox"/> その他

#### 6) 検討委員会の評価を踏まえた内部の総合判断（評価）

判定	内容
<b>B</b>	A 目標を達成することができた B 概ね目標を達成できた C 目標の半分は達成できた D まったく目標を達成できなかった

#### 7) 評価委員会を踏まえた次年度に向けた方向性と目標設定

##### 1) 次年度に向けた取組の方向性

・支援対象個社以外の管内の事業者が、「ぜひ取組んでみたい」と思える「良い事例」の公表と共有の仕方を検討して進めていく。

・新たに支援する個社を拡げる一方、支援を卒業する個社の状況とは、どのようなものなのかを検討していく。

2 次年度に向けた取組目標

評価委員会を踏まえ、下表の内容を目標とする。

支援内容		令和4年目標 (評価委員会より)
事業計画策定事業者数	社	6
事業計画策定支援周知数	部	11,000
副業の始め方セミナーの開催	回	1
副業の始め方セミナーの参加者数	名	10

\*副業セミナーは、創業予備軍や創業者の掘り起しの手段であるが、セミナー参加者を募ることに苦戦した経験がある。そのため、本年は二の足を踏んだ。この点について、委員の方々の意見をいただきたい。

#### 4. 事業計画策定後の実施支援に関すること

##### 1) 目的

事業計画を策定した事業者に寄り添い、PDCA サイクルを回す事業者の実現性や実効性を支援していくことである。

##### 2) 実施した内容

- ・定期巡回による既存事業者のアフターフォローの実施

：別添⑦ 定期巡回フォローアップ表（5件）

事業計画策定を過去に実施した個社を対象に、都度巡回訪問し、計画の進捗状況の確認を行った。また、必要に応じて、計画進行に役立つ補助金や助成金の周知にも取り組んだ。

事業計画の進捗状況が芳しくない、あるいは事業計画について経営実態とのズレが生じてしまったなどの場合には、辛抱強く個社に寄り添い、計画の修正や変更等、実現性が高まるようサポートしている。経営指導員の支援で、解決が難しい専門的な内容については、各種専門家派遣制度を活用し、専門家と連携を取りながらサポートしている。

	指導の方向性
売上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存取引先受注減：既存新規または新市場開拓</li> <li>・新規取引先開拓遅れ：社長のモチベーションの維持をサポート、社員の士気の向上をサポート、営業進捗状況の確認等</li> </ul>
売上原価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適正人件費の確認並びに生産性の助言</li> <li>・原料の仕入先交渉進捗や代替原料の可能性等の助言</li> <li>・製造時原料ロスの確認等</li> </ul>
販売管理費	<ul style="list-style-type: none"> <li>・売上に繋がる費用か否かの確認により、繋がらない場合は削減の助言</li> </ul>

(助言の方向性)

- ・副業セミナー参加者のフォローアップ

本年は実施していない。

##### 3) 目標と実績

支援内容		令和3年目標 (評価委員会より)	令和3年実績
定期巡回フォローアップ回数	回	4	2
定期巡回フォローアップ件数	社	10	5
副業の始め方セミナーの参加者 フォローアップ	名	10	0

#### 4) 実績に対する検討委員会の評価（5段階評価）

	無い	どちらかと言えば無い	どちらとも言えない	どちらかと言えば有る	有る
有効性					○
必要性					○
	不適切	どちらかと言えば不適切	どちらとも言えない	どちらかと言えば適切	適切
妥当性					○
	無い	どちらかと言えば無い	どちらとも言えない	どちらかと言えば有る	有る
効率性					○

（評価の内容）

有効性：成果はあるか？効果は高いか？

必要性：目標に添っているか？必要か？

妥当性：事業実施の方法や内容は適切か？

効率性：ムリ、ムダ、ムラはどうか？

〔検討委員会における評価並びに助言や提言〕

泉 貴嗣：事務局の報告を踏まえ、定期巡回のフォロー件数は、速報値ということで把握する。事務局の見通しでは、7件程度になるという旨を盛り込み評価する。

奥村 友美子：環境変化が大きいコロナ禍でフォローアップの重要性が高まっている。当庫においても融資後顧客の資金繰り支援・事業承継支援・外部専門家取次支援等を積極的に実施しているため、フォローアップ時にニーズがあった際は、連携を願いたい。

磯田 純子：現在は、小規模事業者持続化補助金の計画策定済み個社が対象のフォローアップなので、難しい要望かもしれないが、ほか計画策定個社のフォローアップ等、今後の掘り起しに期待する。

齋藤 伸介：起業後の事業の円滑は、個社にとって難しい課題だが、行政としての施策も用意（専門家派遣制度、町の広報誌の利用等）しているので、ますます連携して、より精度の高い計画策定を側面支援したい。

坂本 誠治：行政として創業セミナー等を実施しているが、単発であることが多い。商工会と緻密に連携する等、今後の取組の発展に期待する。



《委員長の総括》

速報値による判定となるが、各委員からの指摘、助言にもあるように、各セクターとの連携によって、より支援ニーズの深耕が見込まれる。そのため、今後は他セクターとの緊密な連携による取り組みの推進が望まれる。

5) 検討委員会の評価を踏まえた今後の方向性

<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 新たな取り組み <input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 改善	<input type="checkbox"/> 手法の見直し <input type="checkbox"/> 内容の見直し <input type="checkbox"/> その他 (                                 )
<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input checked="" type="checkbox"/> 適切な事業 <input type="checkbox"/> 大幅な見直し不要 <input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 効果や妥当性の範囲で実施 <input type="checkbox"/> いずれは廃止・休止 <input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 廃止・休止	<input type="checkbox"/> 効果や妥当性なし <input type="checkbox"/> 代替策を検討 <input type="checkbox"/> その他

6) 検討委員会の評価を踏まえた内部の総合判断（評価）

判定	内容
C	A 目標を達成することができた B 概ね目標を達成できた C 目標の半分は達成できた D まったく目標を達成できなかった

7) 評価委員会を踏まえた次年度に向けた方向性と目標設定

1) 次年度に向けた取組の方向性

本年事業内容を継続し、取り組んでいく。

2) 次年度に向けた取組目標

評価委員会を踏まえ、下表の内容を目標とする。

支援内容		令和4年目標 (評価委員会より)
定期巡回フォローアップ回数	回	4
定期巡回フォローアップ件数	社	10
副業の始め方セミナーの参加者 フォローアップ	名	10

## 5. 需要動向調査に関すること

### 1) 目的

個社が、商品化や販路開拓の取り組みを実施する際、有益な情報が提供できるよう、当会がリーダーシップを発揮し必要情報を収集していくことである。

### 2) 実施した内容

#### ・個社の需要開拓に必要な調査の実施

下表の業種を1社ずつピックアップし、事業者が需要開拓の取組みで「知りたい」情報を提供する為、個社のための「調査事業」を行った。主な概要も表中に記載する。

古着販売業	Web 集客のための「適切な検索ワード」の選定、並びにテキストの作成
飲食業 (創業予定)	ランチ時間の web 集客のため、「適切な検索ワード」の選定、並びにテキストの作成
農機具販売業	ロボット等の自動草刈機の web を活用した需要開拓のため、「適切な検索ワード」の選定、並びにテキストの作成
農業	椎茸の通販（宅配）の web を活用した需要開拓のため、「適切な検索ワード」の選定、並びにテキストの作成
整体業	新規顧客獲得のための「紹介カード」に掲載すべき情報の選定、並びに web サイトの「適切な検索ワード」の選定、並びにテキストの作成
製造業	初めての消費者向け商品の需要開拓に必要な web サイトの「必要テキスト」の作成、商品カタログへの掲載情報の選定と作成

#### ・個社の需要開拓に資する助言の実施

前述の調査結果を踏まえ、計6社に「需要開拓」に繋がるよう、継続して支援している。

### 3) 目標と実績

支援内容		令和3年目標 (評価委員会より)	令和3年実績
個社の需要開拓に必要な調査の実施	件	6	6
個社の調査結果を踏まえた需要開拓助言や指導	社	6	6

#### 4) 実績に対する検討委員会の評価 (5段階評価)

	無い	どちらかと言えば無い	どちらとも言えない	どちらかと言えば有る	有る
有効性					○
必要性					○
	不適切	どちらかと言えば不適切	どちらとも言えない	どちらかと言えば適切	適切
妥当性					○
	無い	どちらかと言えば無い	どちらとも言えない	どちらかと言えば有る	有る
効率性					○

(評価の内容)

有効性：成果はあるか？効果は高いか？

必要性：目標に添っているか？必要か？

妥当性：事業実施の方法や内容は適切か？

効率性：ムリ、ムダ、ムラはどうか？

[検討委員会における評価並びに助言や提言]

泉 貴嗣：

支援を受けた個社において、満足度の高い取り組みであったという事務局の報告には好感が持てる。次年度も引き続き継続し、より量と質を可能な限り拡げてもらいたい。

奥村 友美子：デジタル化が進む中で、WEBに不慣れな事業者に対する支援の必要性が高まっている。今後の需要開拓にはデジタルツールの活用が必須と思われるため、サポート願いたい。

《委員長の総括》

総じて事業者の満足度が高い取り組みであったことは評価に値する。まだまだ小規模事業者ではICTを活用したマーケティング、事業推進が増えてである現状を考えれば、管内事業者のマーケティング、ICTリテラシーにあわせた取り組みの推進が望まれる。

5) 検討委員会の評価を踏まえた今後の方向性

<input checked="" type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 新たな取り組み <input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 改善	<input type="checkbox"/> 手法の見直し <input type="checkbox"/> 内容の見直し <input type="checkbox"/> その他 ( )
<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 適切な事業 <input type="checkbox"/> 大幅な見直し不要 <input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 効果や妥当性の範囲で実施 <input type="checkbox"/> いずれは廃止・休止 <input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 廃止・休止	<input type="checkbox"/> 効果や妥当性なし <input type="checkbox"/> 代替策を検討 <input type="checkbox"/> その他

6) 検討委員会の評価を踏まえた内部の総合判断（評価）

判定	内容
<b>A</b>	A 目標を達成することができた B 概ね目標を達成できた C 目標の半分は達成できた D まったく目標を達成できなかった

7) 評価委員会を踏まえた次年度に向けた方向性と目標設定

1) 次年度に向けた取組の方向性

- ・ 個社が必要な情報を、自らが収集できるスキルを身につけさせる支援を模索していく。
- ・ 今回の個社向けの情報提供と需要開拓の支援は有効なため、次年度以降も同様の手法を継続していく。
- ・ 上記の個社向けの情報提供と需要開拓の支援の恩恵を、1社でも多くの方が、享受できる工夫について、模索していく。

2) 次年度に向けた取組目標

評価委員会を踏まえ、下表の内容を目標とする。

支援内容		令和4年目標 (評価委員会より)
個社の需要開拓に必要な調査の実施	件	6
個社の調査結果を踏まえた需要開拓助言や指導	社	6

## 6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること

### 1) 目的

個社に販売機会等を創出し、少しでも需要の開拓に繋がるサポートが出来る体制を構築していくことである。

### 2) 実施した内容

#### ・ビジネス異業種交流会

地域内企業の受発注の交流促進を図るため、愛川工業クラブ、大塚下団地共栄会、神奈川県内陸工業団地協同組合、一般財団法人繊維産業会などの諸団体の連携協力を得て、製造業を中心に実施すべく毎年準備してきた。

一昨年より続く、新型コロナウイルス感染症の蔓延影響の危惧と、長年実施してきたことにより今年度以後開催を発展的休止とした。

#### ・事業所フェアの開催

地域内最大イベント「ふるさとまつり」とのタイアップ事業として、中小小規模事業者の取り扱う商品や製品・サービスなどをより多くの地域住民の方々に知っていただく場として実施すべく毎年準備してきた。

昨年より続く、新型コロナウイルス感染症の蔓延影響の危惧と、長年実施してきたことにより今年度以後開催を発展的休止とした。

#### ・愛川にぎわいマルシェ開催

: 別添⑧ イベント参加者 募集案内

地域内の小規模企業者は大型店やフランチャイズチェーン等の影響や消費低迷等、大変厳しい経営環境に個社は置かれている。このような状況を踏まえ、あいちゃん商店会、愛川町観光協会、城山商工会と連携し、個社に販売機会を提供するため、実施している。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の蔓延の影響を危惧し、4月と1月を除いて開催を中止した。

#### ・かながわ商工会まつりへの参加

神奈川県商工会連合会と連携して開催する「かながわ商工会まつり」で展示・商談会への出展を例年実施しているが、新型コロナウイルス感染症の蔓延の影響を危惧し、開催が中止となった。

#### ・より個社に寄り添った需要開拓の取組み支援

前項の需要動向調査事業と同期し、実施した。

古着販売業	Web 集客のための「SNS」への投稿内容、ヤフオク等のツールでの投稿内容等々を助言
農機具販売業	ロボット等の自動草刈機の web 集客の実現のため、Google ビジネスプロフィールの活用策について助言
農業	椎茸の通販（宅配）の web 集客のため、「SNS」への投稿内容、Google ビジネスプロフィールの運用法等について助言
整体業	新規顧客獲得のための web サイトの活用法、SNS への投稿内容等について助言
製造業	新規顧客獲得のための web サイトの運用、SNS の投稿内容、展示商談会での商品カタログの運用方法等について助言

・ホームページ（HP）作成支援

前項の需要動向調査事業と同期し、実施した。

支援個社数 5 社

3) 目標と実績

支援内容	令和 3 年目標 (評価委員会より)	令和 3 年実績
愛川にぎわいマルシェ(朝市)年間開催回数	9 回	2 回
同上 出店者数(1 回あたり)	24 社	15.5 社
同上 年間来場者数	4100 人	610 人
同上 全出店者の年間売上合計額(最大 9 回出店)	360 万円	80 万円
かながわ商工会まつり出店者数	1 社	0
同上 売上合計額(年 1 回)	1 万円	0
HP 作成支援事業者数	2 社	5 社
個社に寄り添った需要開拓支援 (IT 支援含む)	5 社	6 社

#### 4) 実績に対する検討委員会の評価 (5段階評価)

##### ※実施分のみ評価

	無い	どちらかと言えば無い	どちらとも言えない	どちらかと言えば有る	有る
有効性			○		
必要性			○		
	不適切	どちらかと言えば不適切	どちらとも言えない	どちらかと言えば適切	適切
妥当性					○
	無い	どちらかと言えば無い	どちらとも言えない	どちらかと言えば有る	有る
効率性				○	

(評価の内容)

有効性：成果はあるか？効果は高いか？

必要性：目標に添っているか？必要か？

妥当性：事業実施の方法や内容は適切か？

効率性：ムリ、ムダ、ムラはどうか？

[検討委員会における評価並びに助言や提言]

泉 貴嗣：

- ・感染症の影響により、イベント中止や休止が多く、そもそも評価することが困難な事業である。
- ・感染症の影響は、所与のものなので、with コロナを踏まえた、計画や内容の見直しも必要なのでは無いか。

奥村 友美子：コロナ禍でイベント等が制限されるなかで、新形態での販路開拓施策が求められている。HPやSNSを活用した集客・販路開拓支援の重要性が認められる。

磯田 純子：ビジネス異業者交流会や事業者フェアは、事務局より発展的休止という報告があった。そもそもの実施の意味や意義を再検討していただき、今後の再開に期待する。

《委員長の総括》

コロナ禍によって評価が難しい取り組みではあるが、仮にコロナ禍自体が終息しても、これによってもたらされた消費者のライフスタイル等は、その後も大きな影響を与えるものと考えられる。そのため、今後はコロナ禍を前提とした企画のバリエーション増加、目標設定などが望まれる。

5) 検討委員会の評価を踏まえた今後の方向性

<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 新たな取り組み <input type="checkbox"/> その他
<input checked="" type="checkbox"/> 改善	<input type="checkbox"/> 手法の見直し <input checked="" type="checkbox"/> 内容の見直し <input type="checkbox"/> その他 (                      )
<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 適切な事業 <input type="checkbox"/> 大幅な見直し不要 <input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 効果や妥当性の範囲で実施 <input type="checkbox"/> いずれは廃止・休止 <input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 廃止・休止	<input type="checkbox"/> 効果や妥当性なし <input type="checkbox"/> 代替策を検討 <input type="checkbox"/> その他

6) 検討委員会の評価を踏まえた内部の総合判断 (評価)

判定	内容
C	A 目標を達成することができた B 概ね目標を達成できた C 目標の半分は達成できた D まったく目標を達成できなかった

7) 評価委員会を踏まえた次年度に向けた方向性と目標設定

1) 次年度に向けた取組の方向性

- ・感染症影響下で未実施であった事業については、次年度、可能な範囲で実施、あるいは代替的アプローチを模索していく。イベントありきの目標設定を是とせず、見直しを検討していく。
- ・個社が必要な情報を、自らが収集できるスキルを身に着けさせる支援手法について模索していく。
- ・感染症の影響下を踏まえ、「早急な需要開拓の必要性がある個社」がある場合、優先的に伴走して支援していく。
- ・前項の調査事業とセットに、個社にとって需要開拓に必要な情報収集の支援に留まらず、可能な限り実需につながるようサポートしていく。



2 次年度に向けた取組目標

評価委員会を踏まえ、下表の内容を目標とする。

支援内容	令和4年目標 (評価委員会より)
愛川にぎわいマルシェ(朝市)年間開催回数	9回
同上 出店者数(1回あたり)	24社
同上 年間来場者数	4100人
同上 全出店者の年間売上合計額(最大9回出店)	360万円
かながわ商工会まつり出店者数	1社
同上 売上合計額(年1回)	1万円
HP作成支援事業者数	2社
個社に寄り添った需要開拓支援(IT支援含む)	5社

## 7. 地域経済の活性化に資する取組みに関すること

### 1) 目的

商工会は、地域の商工業の中核的支援拠点として体制を強化していき、地域経済の活性化に貢献できる「意識の高い事業者」を増やしていくサポートをしていくことである。

### 2) 実施した内容

- ・愛川にぎわいマルシェの企画並びに開催

地域内の小規模企業者は大型店やフランチャイズチェーン等の影響や消費低迷等大変厳しい経営環境に置かれている。このような状況を踏まえ、商工会がリーダーシップを発揮し、愛川町商店連合会、愛川町観光協会、城山商工会と連携し、当該イベントを企画、開催した。

詳細は、前項「6 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること」を参照いただきたい。

### 3) 目標と実績

支援内容	令和3年目標 (評価委員会より)	令和3年実績
朝市(愛川にぎわいマルシェ)開催回数	9回	2回
朝市出展者数(1回あたり)	24社	15.5社
朝市来場者数(年間)	4,100人	610人

### 4) 実績に対する検討委員会の評価(5段階評価)

#### ※実施分のみ評価

	無い	どちらかと言えば無い	どちらとも言えない	どちらかと言えば有る	有る
有効性				○	
必要性					○
	不適切	どちらかと言えば不適切	どちらとも言えない	どちらかと言えば適切	適切
妥当性					○
	無い	どちらかと言えば無い	どちらとも言えない	どちらかと言えば有る	有る
効率性					○

#### (評価の内容)

有効性：成果はあるか？効果は高いか？

必要性：目標に添っているか？必要か？

妥当性：事業実施の方法や内容は適切か？

効率性：ムリ、ムダ、ムラはどうか？



6) 検討委員会の評価を踏まえた内部の総合判断（評価）

判定	内容
C	A 目標を達成することができた B 概ね目標を達成できた C 目標の半分は達成できた D まったく目標を達成できなかった

7) 評価委員会を踏まえた次年度に向けた方向性と目標設定

1) 次年度に向けた取組の方向性

- ・with コロナを前提としたイベント等の取組の仕組みや、体制の検討を進めていく。
- ・商工会として、地域活性化の定義について議論を深めていく。

2) 次年度に向けた取組目標

評価委員会を踏まえ、下表の内容を目標とする。

支援内容	令和4年目標 (評価委員会より)
地域活性化委員会 (愛川にぎわいマルシェ委員会へ統合)	3回
朝市(にぎわいマルシェ)開催回数	9回
朝市出展者数(1回あたり)	24社
朝市来場者数(年間)	4,100人

## 8. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること

### 1) 目的

支援に活用できる知識やノウハウを他支援機関から積極的に吸収し学ぶことである。

### 2) 実施した内容

#### ・研修機会への積極的参加

: 別添⑨ 参加した神奈川県商工会連合会 主催研修会の案内文

: 別添⑩ 参加した中小企業大学校 企画研修会の案内文

神奈川県商工会連合会が主催する研修会や、中小企業大学校の企画する研修会に、積極的に参加し、経営指導員が個社支援の知恵や知識、ノウハウを習得することを心掛けた。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の蔓延の影響を危惧し、当所の計画通りの頻度や内容は実現できなかった。

神奈川県商工会連合会 主催研修会参加者

: 諏訪部指導員 2回、深澤指導員 1回、和田指導員 1回

中小企業大学校 企画研修会参加者

: 諏訪部指導員 1回、深澤指導員 2回、和田指導員 1回

#### ・金融機関等の連携

国の金融機関である日本政策金融公庫主催のマル経協議会等に参加し、必要な情報収集や意見交換を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の蔓延の影響を危惧し、リモート会議により1回だけの実施となった。

#### ・労働基準監督署との連携

労働基準監督署の行う労務関連団体連絡会議において、各労務系団体、社会保険労務士などと、国の労働行政施策・法律・労災現状などの情報収集を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の蔓延の影響による業務優先のため、今期は実施しなかった。

#### ・町行政機関との意見情報交換会

行政の産業政策等と歩調を合わせるため、重視している場であるが、新型コロナウイルス感染症の蔓延の影響を危惧し、当所の計画通りの頻度や内容は実現できなかった。

### 3) 目標と実績

支援内容	令和3年目標 (評価委員会より)	令和3年実績
全国連・県連等の研修会参加者数(指導員3、支援職員1の計4人)	4人	3人
同上 4人×年間参加回数	16回	4回
中小企業大学校の研修会参加者数(指導員3、支援職員1の計4人)	4人	3人
同上 4人×年間参加回数	4回	4回
日本政策金融公庫との情報交換・勉強会延べ参加者数	2人	2人
同上 年間参加回数	2回	1回
労働基準監督署 労務関連意見交換会延べ参加者数	3人	0人
同上 年間参加回数	3回	0回
金融機関との懇談会延べ参加者数	4人	0人
同上 年間開催回数	2回	0回
町行政機関との意見情報交換会延べ参加者数	30人	8人
同上 年間開催回数	3回	1回

### 4) 実績に対する検討委員会の評価 (5段階評価)

#### ※実施分のみ評価

	無い	どちらかと言えば無い	どちらとも言えない	どちらかと言えば有る	有る
有効性					○
必要性					○
	不適切	どちらかと言えば不適切	どちらとも言えない	どちらかと言えば適切	適切
妥当性				○	
	無い	どちらかと言えば無い	どちらとも言えない	どちらかと言えば有る	有る
効率性				○	

(評価の内容)

有効性：成果はあるか？効果は高いか？

必要性：目標に添っているか？必要か？

妥当性：事業実施の方法や内容は適切か？

効率性：ムリ、ムダ、ムラはどうか？

[検討委員会における評価並びに助言や提言]

泉 貴嗣:

・各機関との連携は、連携先からの中止や休止であったのか。そうであれば、オンライン対応など、連携の手法の検討、さらには、連携する意義を踏まえた、内容の見直しが必要であろう。

・地域金融機関の拠点が減少する中、これ迄に得られていた情報の収集に苦慮するかもしれない。その代替案の検討を深めていただきたい。

・研修参加への負担感を心配するが、オンライン対応研修への参加や、価値ある内容（不当要求対応策等）を選別することでの参加等、好感が持てる取組だと評価できる。

奥村 友美子：各機関との連携を活かした取組であり、効果的である。コロナ禍で制限はあるが、リモート等も活用することで推進頂きたい。

磯田 純子：県連の内容は今一つという意見が、ほか商工会等から散見される意見だが、当商工会においては、どうか。開催内容における重要度等を踏まえ、選別して参加している点が評価できる。

《委員長の総括》

各機関との連携については今後もオンラインでの連携体制の強化を図ることを期待する。また、管内の経済状況等の把握は多面的に行う必要があるため、そのための連携先の開拓を続けると共に、商工会が連携先に提供できるリソースを事前に明らかにしておくことが必要である。

#### 5) 検討委員会の評価を踏まえた今後の方向性

<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 新たな取り組み <input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 改善	<input type="checkbox"/> 手法の見直し <input type="checkbox"/> 内容の見直し <input type="checkbox"/> その他 (                                  )
<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input checked="" type="checkbox"/> 適切な事業 <input type="checkbox"/> 大幅な見直し不要 <input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 効果や妥当性の範囲で実施 <input type="checkbox"/> いずれは廃止・休止 <input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 廃止・休止	<input type="checkbox"/> 効果や妥当性なし <input type="checkbox"/> 代替策を検討 <input type="checkbox"/> その他

6) 検討委員会の評価を踏まえた内部の総合判断（評価）

判定	内容
<b>B</b>	A 目標を達成することができた B 概ね目標を達成できた C 目標の半分は達成できた D まったく目標を達成できなかった

7) 評価委員会を踏まえた次年度に向けた方向性と目標設定

1) 次年度に向けた取組の方向性

・感染症影響下でスタンダードになりつつある「オンライン化による対応」を進めていく。

2) 次年度に向けた取組目標

評価委員会を踏まえ、下表の内容を目標とする。

支援内容	令和4年目標 (評価委員会より)
全国連・県連等の研修会参加者数(指導員3、支援職員1の計4人)	4人
同上 4人×年間参加回数	16回
中小企業大学校の研修会参加者数(指導員3、支援職員1の計4人)	4人
同上 4人×年間参加回数	4回
日本政策金融公庫との情報交換・勉強会延べ参加者数	2人
同上 年間参加回数	2回
労働基準監督署 労務関連意見交換会延べ参加者数	3人
同上 年間参加回数	3回
金融機関との懇談会延べ参加者数	4人
同上 年間開催回数	2回
町行政機関との意見情報交換会延べ参加者数	30人
同上 年間開催回数	3回



## 9. 経営指導員等の資質向上に関すること

### 1) 目的

経営指導員や職員等の個社支援や、地域へ関わる能力や質を高めるため、必要な学びや経験を積極的に受け入れていくことである。

### 2) 実施した内容

#### ・資質向上に繋がる学びの場への積極的参加

神奈川県商工会連合会が主催する「基本能力研修会」、中小企業基盤整備機構が実施する「小規模事業者支援研修会」、さらには中小企業大学校の主催する「中小企業支援担当者等研修会」の専門コース等を想定していたが、新型コロナウイルス感染症の蔓延の影響、による支援業務優先等により、当所の計画通りの頻度や内容は実現できていない。

神奈川県商工会連合会 主催研修会参加者

：諏訪部指導員 2回、深澤指導員 1回、和田指導員 1回

中小企業大学校 企画研修会参加者

：諏訪部指導員 1回、深澤指導員 2回、和田指導員 1回

#### ・OJTによる若手指導員の支援能力指導

若手指導員や経営支援担当職員については、ベテラン指導員と同席し、小規模事業者の相談・指導を体験する機会を増やした。助言内容や情報収集の方法を学ぶことができた。

対象になった若手指導員名：諏訪部 智、井上 雅士

実施日：適時

### 3) 目標と実績

経営発達支援計画にて定量的目標は未設定

### 4) 実績に対する検討委員会の評価（5段階評価）

	無い	どちらかと言えば無い	どちらとも言えない	どちらかと言えば有る	有る
有効性					○
必要性					○
	不適切	どちらかと言えば不適切	どちらとも言えない	どちらかと言えば適切	適切
妥当性					○
	無い	どちらかと言えば無い	どちらとも言えない	どちらかと言えば有る	有る
効率性					○

(評価の内容)

- 有効性：成果はあるか？効果は高いか？
- 必要性：目標に添っているか？必要か？
- 妥当性：事業実施の方法や内容は適切か？
- 効率性：ムリ、ムダ、ムラはどうか？

[検討委員会における評価並びに助言や提言]

泉 貴嗣：経営発達支援計画では、定量的な目標設定は不要とあるが、今後の取組の達成度や、課題改善の道標に、アウトカムを意識した定量化した目標を設定してはどうか。

奥村 友美子：資質向上にむけた意識・取組の重要性は高く、継続していくことで有効性が高まると感じる。

《委員長の総括》

質の高い事業者支援のために、継続的な人的資源への投資は不可欠であり、この取り組みを強化する必要がある。それには管内の将来の経済状況を見越した人材戦略が不可欠である。今後は同戦略を検討することが望まれる。

5) 検討委員会の評価を踏まえた今後の方向性

<input checked="" type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 新たな取り組み <input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 改善	<input type="checkbox"/> 手法の見直し <input type="checkbox"/> 内容の見直し <input type="checkbox"/> その他 (                      )
<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 適切な事業 <input type="checkbox"/> 大幅な見直し不要 <input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 効果や妥当性の範囲で実施 <input type="checkbox"/> いずれは廃止・休止 <input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 廃止・休止	<input type="checkbox"/> 効果や妥当性なし <input type="checkbox"/> 代替策を検討 <input type="checkbox"/> その他

6) 検討委員会の評価を踏まえた内部の総合判断 (評価)

判定	内容
A	A 目標を達成することができた B 概ね目標を達成できた C 目標の半分は達成できた D まったく目標を達成できなかった

7) 評価委員会を踏まえた次年度に向けた方向性と目標設定

1 次年度に向けた取組の方向性

・研修や学びの場で、参加者が学んだ内容を、他の職員や指導員に共有する場を設けていく。また、傾聴した他の経営指導員や職員が、実際の支援の場等で「使える」ような共有の仕方の工夫を模索していく。

2 次年度に向けた取組目標

経営発達支援計画にて定量的目標は未設定